

英語「を」学ぶ力と英語「で」学ぶ力を一体的に育む授業開発 ー第4学年「アメリカの小学生に附属小のことを伝えよう」を通してー

山田 竜誠

1 はじめに

小学校外国語の教科化から本年度で6年目を迎える現在、AIの急速な進展により、外国語を教える・学ぶ意義は何かという問いに向き合い続けていく必要があると考える。筆者はこれまで、CLIL（Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習）の考え方を取り入れた授業実践を行ってきた。単なる言語学習として英語を学ぶだけではなく、英語「で」内容やトピックについて学ぶことで、英語の有用性に気づき、英語で言えたことの達成感や、英語で言いたいという意欲をもてるような子どもを育てていきたいと考えた。山田（2026）は、絶滅危惧種をトピックとした授業実践を行い、CLILの授業においても目的・場面・状況に応じた言語活動が、言語理解への意欲・技能の向上に効果的であることを示した。つまり、英語「を」学ぶ力と英語「で」学ぶ力を一体的に育むためには、単元の中でどのような言語活動を設定するかが大切であると考えた。

本稿では、英語「を」学ぶ力と英語「で」学ぶ力を一体的に育む言語活動として、今年度実施した国際交流活動を取り上げる。学習した語彙や表現を用いて、伝え方を工夫しながら紹介することを通して、英語運用能力を身につけること（英語「を」学ぶ力の育成）とともに、自分たちの国や学校の文化について改めて考えたり、異文化に対する理解を深めたりすること（英語「で」学ぶ力の育成）をねらいとしている。今年度は3～6年生の英語科の授業において、主にビデオレターや手紙を通じた交流を行った。その中でも4年生で実施した「アメリカの小学生に附属小のことを伝えよう」の単元を事例として、学校紹介の動画における児童の発話分析や振り返りシートにおける児童の記述分析を行い、英語「を」学ぶ力と英語「で」学ぶ力をどのように身につけたかを考察する。

2 単元デザイン

(1) 学年 第4学年

(2) 単元名 「アメリカの小学生に附属小のことを伝えよう」

(Let's try 2 Unit 8 This is my favorite place.)

(3) 単元の目標

日本の文化を学ぶアメリカの小学生に附属小について知ってもらうために、自分の気に入りの校内の場所やその場所にあるものなどについて、相手に伝わるように工夫しながら紹介をする。

(4) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	教室名やその場所にあるものの言い方、道案内の表現を聞くことに慣れ親しんでいる。	お気に入りの場所やその場所にあるものの表現や道案内を聞いて、内容を理解している。	
話すこと「発表」	自分のお気に入りの場所やその場所にあるものについて、 This is ～. (I like ～.) We have ～. などを用いて、紹介をしたり道案内をしたりすることに慣れ親しんでいる。	実物を示しながら紹介をしたり、道案内や質問をしたりなど相手に伝わるように工夫しながら、自分のお気に入りの場所やその場所にあるものを紹介している。	実物を示しながら紹介をしたり、道案内や質問をしたりなど相手に伝わるように工夫しながら、自分のお気に入りの場所やその場所にあるものを紹介しようとしている。

(5) 単元計画（全8時間）

時	学習活動（目標◆・主な活動○）	評価
1	◆紹介したい場所を考えよう。 ○交流相手の学校のホームページを見て、附属小との違いを考える。 ○教室名の語彙に慣れ親しむ。（ミッシングゲーム等）	
2	◆校内の好きな場所を伝え合おう。 ○道案内の表現に慣れ親しむ。（指示を聞き、その通りに動くゲーム） ○友だちに校内の好きな場所をインタビューする。	
3	◆スクールクイズをしよう。 ○校内の場所について、何階にあるか、その場所にあるもの等のヒントを出し、好きな場所をあてるクイズをする。	
4	◆学校紹介に向けて伝えたい内容を考えよう。 ○3ヒントスクールクイズ ○ロイロノートを用いて、自分の伝えたい内容や順番を整理する。	
5	◆（ ）を意識して、学校紹介の練習をしよう。 ○自分で本時の目標を設定し、ロイロノートで伝えたい内容を確認したり、実際に紹介している様子を撮影したりしながら、教室で練習をする。	
6	◆（ ）を意識して、学校紹介の練習をしよう。 ○前時に撮影した友だちの紹介動画を見て、良いところや自分の紹介に取り入れられそうなどところを見つけ、自分で本時の目標を設定する。 ○実際に紹介する場所に行き、紹介練習をする。	
7	◆（ ）を意識して、学校紹介をしよう。 ○前時に撮影した友だちの紹介動画を見て、実際の場所で紹介することで生まれた内容や伝え方の工夫を共有し、自分で本時の目標を設定する。 ○実際に紹介する場所に行き、本番の紹介動画を撮影する。	話
8	◆アメリカの小学生の学校紹介を聞こう。 ○自分のクラスや隣のクラスの学校紹介動画を見る。 ○アメリカの小学生の学校紹介動画（返信の動画）を見て、気づいたことや考えたことを書く。	聞

3 授業の実際

(1) 第1時「紹介したい場所を考えよう。」

第1時では、交流相手の学校のホームページから学校生活の様子を撮影した動画を見て、附属小学校との違いを考えた。児童は、校庭が芝生であることやマスコットキャラクターがいることに驚きを示していた。また、附属小と同じように図書室や調理室はあるのか疑問に感じている児童もいた。次に、ミッシングゲーム等を通して校内の場所（教室名）の語彙に慣れ親しんだ後、自分が紹介したい附属小の場所を考える活動を行った。本が好きなので図書室を紹介したいという児童もいれば、運動場で鬼ごっこをしている様子を撮影しながら紹介したいという児童もいた。

(2) 第2時「校内の好きな場所を伝え合おう。」

第2時では、まず2年生の時に学んだ道案内の表現の復習をした。Turn right. / Turn left. / Go straight. / Go back. / Stop. の5つの指示を聞き、全員で指示通りに動いたり、1人の児童が目隠しをした状態で動き、案内された場所に座っている児童は誰か当てたりするゲームをした。その後、学級の友だちに好きな校内の場所をインタビューする活動を行った。児童は、“What’s your favorite place?” “My favorite place is ～.” “I like ～.”等の表現を用いて伝え合うことができた。最後に、本時で学習した表現は、単元末に紹介動画を作る際に、紹介したい場所へ案内をする場面や自分の好きな場所を紹介する場面にも使えるということをおさえた。

(3) 第3時「スクールクイズをしよう。」

第3時では、校内の場所について、何階にあるか (It’s on the ～ floor.), 何があるか (We have ～.), どの先生がいるか (Mr. / Ms. ～ is here.) などのヒントを聞いて、その場所を当てるスクールクイズを行った。児童は、これら3つのヒントをすべて出すことは難しかったものの、答えがすぐにわからないようにヒントを出す順番を考えたり、道案内の表現を用いてヒントを出したりするなど、工夫してやり取りをしている様子が見られた。また、本時で学習した表現は、単元末に紹介動画を作る際に、自分の紹介したい場所を詳しく紹介する場面で使えるということをおさえた。

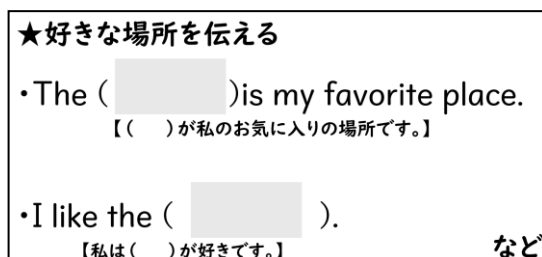
(4) 第4時「学校紹介に向けて伝えたい内容を考えよう。」

第4時では、まず授業で使用しているテキスト Let’s try 2 の Let’s Watch and Think 2 に収録されている海外の学校紹介を見て、学校の様子だけではなく紹介の様子についての気づきを共有した。児童は、「最初に自己紹介をしている。」「その場所にあるものやその場所であることを紹介している。」「最後に質問を付け足している。」などの気づきやどんな表現を使っていたか、他にどんな表現が使えるかを考えた。

その後、ロイロノートを用いて、児童に図1のようなミニカードを数種類配布し、自分の伝えたい表現を選んだり、伝える順番を整理したりする活動を行った。ミニカードには、「あいさつをする」「好きな場所を伝える」「質問をする」などの表現の使用

場面と、その時に使える表現例を示した。括弧内には、東京書籍「My Picture Dictionary」のワードリストのリンク（該当するジャンルのもの）を貼り付けて、児童が使いたい単語を絵と音声で確認できるようにした。また、教師がロイロノートに打ち込んだ英文は、児童が選択して長押しすると英語の音声を聞くことができるため、何度も聞き直して表現を習得しようとする姿が見られた。

【図1】ミニカードの一部（イメージ図）



(5) 第5時・第6時「()を意識して、学校紹介の練習をしよう。」

第5時では、教室の中での紹介練習、第6時では、実際に紹介する場所に行って紹介練習を行った。どちらも何を意識して紹介をするのか、自分の目標を設定して練習に取り組めるようにした。児童は、「自分の好きな本を英語で言うこと」「きんちょうせずにハキハキ言うこと」「あいてにつたえること」などそれぞれの目標を設定し、練習を行った。授業後には動画を提出し、教師からのコメントやフィードバックを見て、より良い紹介になるように改善できるようにした。

(6) 第7時「()を意識して、学校紹介をしよう。」

第7時では、実際に紹介したい場所に行き、本番の紹介動画を撮影した。前時に撮影した友だちの紹介動画を見て、実際の場所で紹介することで生まれた内容や伝え方の工夫を共有した。具体的には、“Look!”と言いながら紹介したいものを指で示しながら紹介したり、Unit 5で学習した“Do you have a ~?”の表現を用いて、アメリカの学校にも紹介したものがあるか質問をしたりなどの良さがあつた。実際の児童の紹介の様子は「4 結果と考察」で述べる。

(7) 第8時「アメリカの小学生の学校紹介を聞こう。」

撮影終了後は、撮影した全員分の動画を教師がつなぎ合わせて、場所ごとにQRコードを作成し、図2のようなシートを作成した。このシートを交流相手の小学校に送って見てもらうだけでなく、第8時に児童が自分のクラスや隣のクラスの動画を見ることができるようにした。シートを交流相手の小学校に送って約1か月後に返信の動画が届き、全員で視聴した。流暢で速いスピードの英語であつたため、全てを聞き取ることは難しかったものの、学習した校内の場所（教室名）や文房具の単語は聞き取れている様子であつた。また、児童が質問したことにも答えてい

【図2】紹介動画のシート



て、質問した児童はとても喜んでいて、学校紹介の動画以外にも、住んでいる地域やアメリカの観光地・食べ物の紹介を日本語でしている動画（主に5年生の国際交流活動で使用）も視聴した。児童は、「ろう下が外にあるということを知ってびっくりした。」「附属小と同じでパターンプロックを使っていた。」など、附属小との共通点や相違点を見つけて驚いている様子が見られた。

4 結果と考察

(1) 児童の紹介動画での発話における結果と考察

第7時に学校紹介の動画（本番）を撮影した際の、児童の実際の発話をそのまま書き起こし、どのように英語「を」学ぶ力が身についているかを考察する。本稿では2人の児童（児童A、児童B）の発話を例に挙げ、考察する。

【児童A】

Hello. My name is (児童の名前). Nice to meet you. Welcome to Hiroshima University School. The rooftop is my favorite place. I like the sky. This is recorder (リコーダーを演奏する). I feel fresh. This is Mt. Ogon (指し示す). Thank you.

児童Aは第6時の練習では、This is ～.とリコーダーや黄金山を紹介するだけであったが、本番では実際にリコーダーを演奏したり、カメラを黄金山の方角に向けて指し示したりなど、相手にわかりやすいように工夫して紹介する様子が見られた。第7時の冒頭で、伝え方を工夫していた児童の動画を全体で紹介したことで、自分の紹介に生かすことができたのではないかと考える。

【児童B】

Hello. My name is (児童の名前). Nice to meet you. Welcome to Hiroshima Elementary School. Library is my favorite place. This is bookshelf (指し示す). I like book (本を3冊見せる). Do you have library? Do you like book? Thank you for listening. See you.

児童Bは紹介の最後に、これまで学習した持ち物や好きなものを尋ねる表現を用いて、質問をすることができた。冠詞や複数形の欠落が見られるものの、have や like などの動詞を使い分けて尋ねることができた。返信の動画では、“This is our library inside our classroom.”という回答があり、教室の中に図書室があるということに驚いている様子が見られた。

(2) 振り返りシートでの記述における結果と考察

児童が第7時、第8時に書いた振り返りシートの記述を部分的に取り上げ、言語面（英語「を」学ぶ）と内容面（英語「で」学ぶ）に分けて分析し、どのような気づきや学びを得たのかについて考察する。

【言語面】

- 相手が聞きやすいようにはっきりしゃべることができた。
- ピアノをひくことで、もっと「ピアノがすき」を伝えれた！
- アメリカの小学校の人の発表をきいてみて、発音がちょっとちがった気がした。アメリカの人から見たら私たちの発音は変なのか気になる。

【内容面】

- 相手の国のいいところを見つけられたし、相手の国の言葉にもきょうみをもてた。
- 人に説明しようとすみずみまでみると私も気づかなかった楽器に出会えた。
- 自分の学校をしょうかいすることになると、当たり前だったことが、「これって、日本とくゆうだよね」とか、「アメリカと同じだ」って感じられることができた。

言語面では、伝え方に着目して振り返っている児童が多くいた。いつもの授業と異なり、「アメリカの小学生に伝える」という相手意識から生まれたものであると考える。一方で、相手が日本文化について学んでいるということをふまえて、伝える内容を考えるというところまでは至らなかった。相手が知りたいことを考えて紹介することで、より深く相手を意識した国際交流活動ができたのではないかと考える。

内容面では、アメリカの学校文化に対する驚きが多く見られた一方で、日本の学校文化を相対化して捉えている記述も見られた。普段の生活の中で「当たり前」と感じていることを見直すことで、多様な価値観を知り、異文化理解を深めることにつながると考える。

5 成果と課題

本実践の成果は、既習表現を活用したり伝え方を工夫したりして紹介をすると同時に、異文化に触れる機会をもつことができたことである。また、ロイロノートを活用して自分の伝えたい語彙や表現を習得したことや、8時間という多くの時数で単元計画を作成したことで、練習・改善の時間を十分に確保することができた。

一方で、異文化に「触れる」から「理解する」まで目指すのであれば、より継続的な交流が必要であると考え。校内の場所だけではなく、学校行事や時間割などの内容においても紹介できるように、他の単元と関連付けながら授業開発をしていきたい。

【引用・参考文献】

- ・文部科学省（2018）『Let's try 2』東京書籍。
- ・山田竜誠（2026）「英語「で」学ぶ子どもを育てるための小学校外国語科の授業開発—CLIL（内容言語統合型学習）に着目して—」『初等教育カリキュラム研究』14 巻，21-30.